

科学をもっと知ろう！

かがくナビ

逆遠近錯視図形

錯視とは、対象が特別の形状や配置にあるとき、実際とは違った形や大きさ、性質のものに見えてしまう現象です。

逆遠近錯視図形とは、手前にあるべきものが凹部分に、奥にあるべきものが凸部分に描かれた立体の図形です。観察者は凹部分に描かれたものを凸に、凸部分に描かれたものを凹に知覚します。

本展示物の錯視と同様の現象が知覚されるものがインターネットで見つけることができる「Gathering for Gardner Paper Dragon」と呼ばれる龍（ドラゴン）の紙模型です。顔の部分は実際には引っ込んでいるのですが、しばらく見ていると奥行き感覚が曖昧になり、顔がでっばって、つまり普通の顔に見えてきます。このような錯視を「ホロウマスク錯視」といいます。

本展示物は、3次元キャンバス上に様々な絵画的奥行き手がかりを含んでいる「現実的な」場面を描くことによって作られています。錯視を作り出すひみつは、キ

ャンバスに描かれた絵画的奥行きと、3次元キャンバスの構造の矛盾にあります。人は、幼児期より絵画的奥行きの手がかりを含んだ2次元風景を3次元構造と見なすよう訓練されています。その情報と異なる実際の奥行きによって、現在のあなたの見え方が生み出されています。

